

令和 7 年度教育課程研究集会

小学校 社会科

徳島県教育委員会

現状の課題を踏まえた授業改善の方向性について

9:30～10:30 協議①

- ・現状の課題の把握について
- ・児童が問題解決の見通しをもとうとする授業とは
(説明・グループ協議)

10:40～11:40 協議②

- ・社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を
選択・判断する授業とは(提出課題を活用して)
(説明・グループ協議)

ペーパーテスト調査等の概要

● 調査実施校：小学校 1,170校 実施児童数 120,378人（延べ数）

※1教科1問当たり、3,000人程度の調査結果を得ることができるよう、調査対象を無作為抽出した。

● データを見るにあたって

○「1. 主な改訂のポイント」「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」「3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性」「4. 調査問題例」の4構成と「4」に対応する問題を別紙（問題例）で添付。

○「2. 学習指導要領実施状況調査から明らかとなった成果と課題」中の赤字部分は「相当数の児童ができている」もの、青字部分は「課題があると考えられる」もので、下線が付されているものは、「4. 調査問題例」及び別紙において問題例（質問項目例）が示されている。

※実技調査については、対象教科（図画工作、家庭、体育（運動領域）、外国語（英語））のペーパーテスト調査を実施する抽出校の中から調査を実施する学校を抽出。（1教科当たり350人程度：10校程度）

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

- 公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて、社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決の見通しをもつ活動や社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、社会への関わり方を選択・判断し、よりよい社会を考えようとする活動などの問題解決的な学習活動の充実を図る。
- 中学校社会科への接続・発展を視野に入れて、内容の枠組みと対象を「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」と整理し、社会科の特質を踏まえ、内容の改善を図る。

2. 学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題

- 資料から問いを見いだすことは相当数の児童ができているが、問題解決の見通しをもつことに課題があると考えられる。
- 資料から情報を読み取ることは相当数の児童ができているが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。
- 社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようとすることに課題があると考えられる。
- 内容により基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられるものや具体的な事実に基づいて社会的事象の特色や意味を理解することに課題があると考えられる。

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

- 指導上の改善点
 - ・学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。
 - ・社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちにできることなどを考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する。
 - ・内容に関しては、例えば、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着する指導や、例えば、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようにする指導の充実を図る。

4. 調査問題例（ペーパーテスト 小学校/社会）

「資料から問いを見いだすこと」の問題例（別紙1参照）

- 今回の学習指導要領の改訂に当たり「問題解決的な学習活動の充実を図ること」を重視して、「思考・判断・表現」の観点から作成した。
- 「思考力、判断力、表現力等の育成」に関連し、「問いを見いだすこと」を問う問題として、

作物の種類と生産量に着目して、問いを見いだしていることを問う問題を出題。【通過率 85.4%】

「読み取ったことを基に図や文などにまとめること」の問題例（別紙1参照）

- 今回の学習指導要領の改訂に当たり「問題解決的な学習活動の充実を図ること」を重視して、「知識・技能」の観点から作成した。
- 「知識及び技能の育成」に関連し、「学習したことを図や文などにまとめること」を問う問題として、

資料を関連付けて、国際交流に取り組む地域の特色を説明する問題を出題。【通過率 25.9%】

「資料から問いを見いだすこと」の問題例

社会科 第3学年(2)「地域に見られる生産の仕事」 B冊子3(1)

- 作物の種類と生産量に着目して、問いを見いだしていることを問う問題
- 資料(表)から作物の種類と生産量に着目して、見いだした問いについて
選択肢から適切なものを選ぶ問題
- ・資料である表と子供の言葉を関連付けて作物の種類や数量を読み取り、
追究する視点に着目した問いを見いだす。
- このような問題から、社会的事象に着目して、問いを見いだす力(思考力、
判断力、表現力等)の育成の状況について測る。

3 次の表を見て、あとの問題に答えましょう。

A市で作られている作物	作られている量
トマト	30 トン
米	10 トン
ダイコン	4 トン
ニンジン	3 トン
キュウリ	2 トン

(1) 上の表を見て、せいやさんは次の質問をもちました。

①に入る言葉としてもっともふさわしいものを次の1から4の中から1つえらび、その番号を□の中に書きましょう。

わたしたちが住むA市で作られている作物のしゅるいと量に着目してみると、①
と思いました。



- A市ではトマトを作っていないのはどうしてだろう
- A市の南ではなぜ作物を作っていないのだろう
- A市でトマトが多くつくられているのはなぜだろう
- 野さいを売る店がたくさんあるのはどうしてだろう

3

「読み取ったことを基に図や文などにまとめること」の問題例

別紙1(問題例)

社会科 第4学年(5)「国際交流に取り組んでいる地域」 B冊子6(2)

- 資料から読み取ったことを基に、国際交流に取り組む地域の特色を文にまとめることを問う問題
- 資料から読み取ったことを基に、国際交流に取り組む地域の特色を2つの言葉を使って文でまとめる問題
- このような問題から、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる力(知識及び技能)の育成の状況について測る。

6 国際交流がさかんなA市の取組について、資料を見てあとの問題に答えましょう。

資料①【A市と国際交流のある国】



A市では、カナダにある姉妹都市との交流がさかんで、中学生が互いの国をほう問したり、スポーツ交流会を開いたりしています。

資料②【A市での取組】



市役所では、外国人が生活を送れるように日本語を教える活動を行っています。小学校では、外国人をまねいて小学生が外国の文化を教わる交流会を開いています。

資料③【地いき住民との交流】



A市に住む外国人もふえてきています。地域住民が外国人たちに声をかけ、伝統のお祭りをいっしょに行うようになりました。

(2) A市の人々は、どのような「まちづくり」をめざしていますか。□の中にある2つの言葉を使って、文を完成させましょう。

特色 国際交流

このまちの人々は、

(正解例) 国際交流を特色としたまちづくりをめざしている

まちづくりをめざしている。

【通過率 85.4%】

【通過率 25.9%】

グループ協議①

小学校の社会科授業は

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
問題解決的な学習を展開すること

小学校社会科における

「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は
問題解決的な学習過程の充実 を図ること

授業者（教師）は、
学習指導要領をきちんと読み取り、（内容の理解）
授業を「単元で考える」ことが大切である
（問題解決的な学習過程の充実）

問題解決的な学習の充実

問題解決的な学習とは、
単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習などを指している。

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編

問題解決的な学習を行うには、
1時間ではなく「単元で考える」こと



単元を通して、どのような活動を組むか



〈学習問題をつかむ場面〉

学習問題をつかみ、学習計画を立てるまでを丁寧に行う

※どう出会うか

※どう問いをもつか

★一人一人が、問題解決の見通しをもつ

〈学習問題を追究する場面〉

どの時間にどのような活動を組むか、

単元をイメージして考える

※学習問題の解決に向けて、

見通し(学習計画)を基に、追究する

★社会的事象の見方・考え方を働かせ、

主体的に問題解決する

〈まとめる場面〉

学習したことを基に、まとめたり、

決めたりするように組む

※自分の考えをまとめる、自分の言葉でまとめる

※社会への関わり方を選択・判断する

単元の目標（内容）

まず、単元の目標を設定する

単元の学習問題

問題解決の見通しをもつ：予想・計画

問い①解決

問い①・資料・活動

問い②解決

問い②・資料・活動

問い③解決

問い③・資料・活動

問い④解決

問い④・資料・活動

次に、評価規準を設定する

単元のまとめ 単元の学習評価

【単元の目標】…この単元のゴール（実現を目指す）
この単元で育成を目指す資質・能力

【単元の学習問題】
目標の実現のために
単元で追究する学習問題を設定する
学習問題を解決すれば、目標の実現に向かう

【各時間の問い】
学習問題を解決するためには、子供の予想（見通し）を基にした問い（左図 問い①②③④）を全て解決することが必要
各時間の問いの解決が、学習問題の解決につながっていく

【単元の評価規準】
…単元の目標の実現を目指すために、
単元を通して見取る子供の具体的な姿

教師が単元を意識するためには 教師が単元のイメージをもつことが大切

- まずは、**学習指導要領を読むこと。**
学習指導要領の読み方を覚えること。
「内容」「内容の取扱い」

学習指導要領（小学校 社会）には、
読み方があり、
読み方を覚えると学びのプロセスがわかる

「～に着目して、～で調べ、～を考え、
表現することを通して～を理解する」

グループ協議②



単元を通して、どのような活動を組むか



〈学習問題をつかむ場面〉

学習問題をつかみ、学習計画を立てるまでを丁寧に行う

※どう出会うか

※どう問いをもつか

★一人一人が、問題解決の見通しをもつ

〈学習問題を追究する場面〉

どの時間にどのような活動を組むか、

単元をイメージして考える

※学習問題の解決に向けて、

見通し(学習計画)を基に、追究する

★社会的事象の見方・考え方を働かせ、

主体的に問題解決する

〈まとめる場面〉

学習したことを基に、まとめたり、

決めたりするように組む

※自分の考えをまとめる、自分の言葉でまとめる

※社会への関わり方を選択・判断する

小学校社会科で資質・能力を育成する
プロセス（過程）を大切にすること

社会的事象の見方・考え方を働かせ、
問題解決的な学習を通す

社会科の目標

資質・能力を育成する過程が示されている

社会的な見方・考え方を働かせ

課題を追究したり解決したりする活動を通して、

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

「社会的な見方・考え方を働かせ」とは

＝社会科における見方・考え方を示している

「課題を追究したり解決したりする活動を通して、」とは

＝教科等の特質に応じた学習活動を示している

＝ ☆問題解決的な学習

小学校社会科は、社会的事象の見方・考え方を働かせ、
問題解決的な学習を通して

**社会的事象の見方・考え方を働かせ、
問題解決的な学習を通す小学校社会科学習**

社会的事象の見方・考え方を働かせ、とは・・・



私たちがいる社会的事象と出会い、その社会的事象のもつ特色や意味を捉える時に、「どこを見たらいいのか」「何を見たらいいのか」という着目する「**視点**」と「どのように考えたらいいのか」という「**方法**」

○小学校社会科の見方・考え方は、

「社会的事象の見方・考え方」である

位置や空間的な広がり

時期や時間の経過

事象や人々の相互関係など に着目して（**視点**），

社会的事象を捉え，

比較・分類したり総合したり，

地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（**方法**）

○小学校社会科においては，

「社会的事象の見方・考え方」を働かせ，

学ぶことを重視する必要がある

社会的な見方・考え方は、資質・能力ではなく
資質・能力【(1)(2)(3)三つの柱】全体にかかわるもの

あくまでも・・・

社会的事象の特色や意味などを考える
社会に見られる課題を把握して、
社会への関わり方を選択・判断する

ために、
子供たちが「働かせるもの」

「社会的事象の見方・考え方を働かせ」に関しても、 学習指導要領をまず読んでつかみたい

「〇〇に着目して問いを設けて調べ、
〇〇と〇〇を比較・分類・総合・関連付けして考える」

学習指導要領の記載事項 「〇〇に着目して」	解説の記載事項・問いの例 「例えば、〇〇などの問いを設けて」
消費者の願いに着目して	「消費者はどのようなことを願って 買い物をしているか」
販売の仕方に着目して	「商店の人は消費者の願いに応え売り上げを 高めるためにどのような工夫をしているか」
地域や外国との関わりに 着目して	「商品や客はどこから来ているか」

解説の記載事項例「〇〇と〇〇を比較・分類・総合・関連付けして考える」

販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを関連付けて考える

第3学年(2) 地域に見られる生産や販売の仕事

午前10時



販売の仕方(工夫)

午後は、ひらいている魚が
パックで売られている。

なぜ？

消費者の多様な願いを踏まえ
売り上げを高めるよう、工夫している

午前は、つったばかりの
ような魚が並んでいる。

消費者の願い

販売する側の仕事の工夫と消費者の願いを
関連付けて考える

午後4時



ま と め



単元を通して、どのような活動を組むか



〈学習問題をつかむ場面〉

学習問題をつかみ、学習計画を立てるまでを丁寧に行う

※どう出会うか

※どう問いをもつか

★一人一人が、問題解決の見通しをもつ

〈学習問題を追究する場面〉

どの時間にどのような活動を組むか、

単元をイメージして考える

※学習問題の解決に向けて、

見通し(学習計画)を基に、追究する

★社会的事象の見方・考え方を働かせ、

主体的に問題解決する

〈まとめる場面〉

学習したことを基に、まとめたり、

決めたりするように組む

※自分の考えをまとめる、自分の言葉でまとめる

※社会への関わり方を選択・判断する

「2030年の社会と子供たちの未来」

中央教育審議会教育課程企画特別部会
論点整理(抜粋) 2015年8月26日

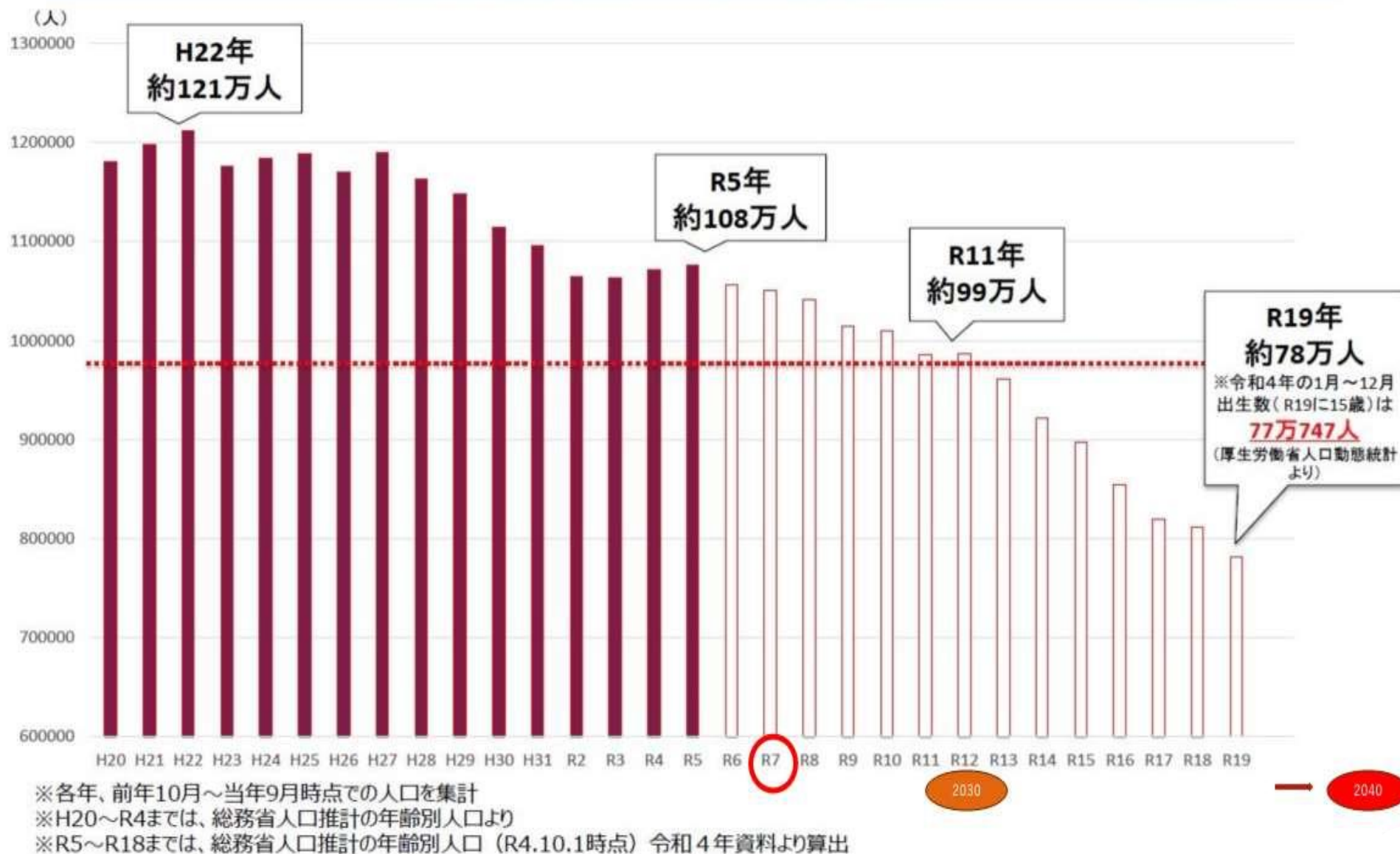
(1) 新しい時代と社会に開かれた教育課程

○ 予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。

○ そのためには、教育を通じて、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解ける力を育むだけでは不十分である。これからの子供たちには、社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。学校の場合においては、子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくことや、そのために求められる学校の在り方を不断に探究する文化を形成していくことが、より一層重要になる。

1 5歳人口の推移

○15歳人口は、年々減少傾向。これまでは100万人を超えて推移してきたが、令和11年には100万人を割り込み、令和19年には約78万人になることがほぼ確実。令和19年の人口は令和5年と比較して約28%も減少する見込み。





教育の不易

- 明治5年に我が国最初の全国規模の近代教育法令である「学制」が公布されてから、令和4年で150年。先人たちが尽力してきた教育改革は、我が国の社会の発展に大きく寄与。
- 教育基本法の理念、目的、目標、機会均等の実現を目指すことは、これからの時代においても変わることのない、教育の「不易」。

将来の予測が困難な時代の教育の羅針盤

- 社会や時代の「流行」の中で、「不易」としての普遍的な使命を実現するためにも、「流行」を取り入れることが必要。
- **2040年以降の社会**を展望したとき、教育こそが、社会をけん引する駆動力の中核を担う営み。計画は、将来の予測が困難な時代において、進むべき方向を指示する教育の羅針盤となるもの。

5つの基本的な方針



徳島県小・中学校教育課程研究集会 受講者アンケートについて

○回答期間

令和7年7月24日（木）～令和7年8月1日（金）

○回答先

Plant【教育課程研究集会のページ】（申込みをしたところになります。）

○留意事項

- ・回答締め切り日を厳守してください。
- ・活用場面につきましては、複数の例を挙げてもかまいません。
- ・回答内容を別途記録しておく、自らの学びを振り返ることに役立ちます。